



西内野 コミュニティだより

19号

発行/西内野コミュニティ協議会 編集委員 2015. 1

第 7 回 西内野

もちつき大会

12月7日(日)

参加者 800 名

恒例の西内野もちつき大会は悪天候予想が見事に外れる中、過去最多の 800 名からご参加頂き、盛大に楽しく行われました。このもちつき大会は、世代間や地域住民との交流を深めることと、新大留学生にも声掛けし伝統の食文化を通じて国際交流も図っております。今年も 6 名の参加がありました。

進行は比較的スムーズで、これも大勢の皆様から、積極的にボランティアに参加して頂いたお陰です。有難うございました。味のほうも留学生も含め皆さんから、「美味しい、美味しい」と称賛の声を頂きました。

今後もこの『もちつき大会』を西内野地区伝統行事として、餅のように粘り強く地域の交流、地域コミュニティを深めることや、国際交流につなげていきたいと思ひます。



参加者の感想

西区役所 広報担当 南雲 洋子さん

つきたてのお餅に誘われ、この時期、区内各地の餅つき大会に、のこのことカメラを掲げて出かけています。西内野ではモチ米 2 俵を用意したと聞いていたけれど、こんなに大勢集まっているなんて！小さな子を連れた家族連れが多く、少子化ってどこの国の話？お父さんたちも一緒に杵を握る姿を見て、若い世代の参加も工夫次第と感心しきり。たくさんの笑顔写真を写しに収め、取材者冥利につきるとは、このような光景に出会うことなのでしょう。

内野平和台

原田 博さん

人生で初めてのもちつきをして手のひらに豆をつくりました。

手は痛かったけど、その分もちはおいしかったです。

内野中1年 富田 夏帆さん

私は初めてもちつき大会のお手伝いをしました。想像以上に難しく大変でした。でも、やっているうちに慣れて手早くできるようになって良かったです。

また、お手伝いの機会があったら地域に貢献できるようにがんばりたいです。

内野中1年 小林 知世さん

私は今までに、もちつき大会に参加させていただくことはありませんでしたが、お手伝いさせてもらったのは初めてでした。おもちにあんこをつける作業を行いました。あんこが均等につかなかったりして大変でした。しかし、地域の方たちとたくさんコミュニケーションがとれて良かったです。

平成26年度 西内野小学校「地域による学校支援活動」 推進にかかる文部科学大臣賞受賞

子どもたちの健やかな成長を目指して

校長 鈴木 剛

栄えある文部科学大臣賞を受賞。快挙です。これまで7年間、地域教育コーディネーターの山岸則子さん、八坂絵里子さんを中心に学校、保護者、地域の三者が手を携え取組を着実に推進してきたことが認められたことに、この上ない喜びを感じています。

約2700人。学習支援ボランティアの年間のべ人数です。これだけ多くの方から支援をいただき教育活動の充実が図られていることに感謝の気持ちでいっぱいです。このような恵まれた環境は、子どもたちの学びに広がりや深まりをもたらします。また、幅広い年齢層とのかかわりが、子どもたちの社会性の伸長につながっていることへの確かな手応えを感じています。正に「生きる力」です。

今回の受賞は、決してゴールではありません。本事業の更なる充実を目指してがんばっていきましょう。そこには、子どもたちの健やかな成長の姿がはっきり見えています。

* * * * *

優れた地域に乾杯！

教頭 川村千恵子

12月8日、冬将軍が新潟市に到来し、冬の厳しさを一層感じる日、地域教育コーディネーターさんたちと私の3名で東京へ向かいました。『優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣賞』の授賞式に参加するためです。東京の空は快晴！霞が関にそびえる石造りの文部科学省は、厳かに迎えてくれました。皆様の代表として、3人で胸を張って賞状をいただいて参りました。本校のパートナーシップ事業を国レベルで認めていただいた瞬間でした。その後、文部科学省の方を囲んで記念撮影、新幹線で帰路につきました。

新潟の寒い冬にも負けない、地域の皆様の熱い心！そして温かな笑顔！皆様、本当におめでとうございました。これからもよろしく願いいたします。地域の皆様に乾杯！



(左より) (文部科学省にて) 八坂コーディネーター、川村教頭、山岸コーディネーター

* * * * *

西内野小学校 PTA会長 石田かおり

こんなにもたくさんの地域の方々が西内野小の子どもたちを支えてくださっていること、また、このような温かい地域の皆様とともに、この賞をいただいたことを大変誇りに感じると同時に、これからも子どもたちの明るい未来を一緒に創造していただければと願っております。

* * * * *

地域教育コーディネーター 八坂絵里子

西内野小学校がこの賞を受賞したこと、とても嬉しく思います。地域の皆様が少しでも子どもたちのためになればと、かかわってくださったお陰だと感謝申し上げます。これからも地域・学校のお力をお借りして、子どもたちのためになるような活動をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

* * * * *

地域教育コーディネーター 山岸 則子

このように大きな賞を受賞することができて、とても嬉しく思っています。文部科学省での授賞式は感無量でした。この受賞は子どもたちのためにと、学校・家庭・地域が力を合わせてきた結果だと思っています。これからも少しでも力をつけた西内野の子どもたちが育つよう、活動をしていきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

* * * * *

学校支援ボランティア 飯塚 トシ

文部科学省受賞おめでとうございます。友だちに誘われて小学校に寄せてもらうようになり色々な方と知り合いになりました。子どもたちの中に入って糸の玉結びから若いお母さんと楽しみながら勉強させてもらっています。



この度、平成26年度住みよい郷土推進協議会会長賞の受賞を受けました。この賞は町内会で推薦され審査の結果、受賞できたものであると聞かされました。思いおこせば、昭和62年に町内会長、平成24年に町内会役員(保健衛生部長)を歴任しました。その間、緑化活動推進事業の世話役、西内野小学校セーフティスタッフ、町内「お助け隊」、「茶の間」の会幹事等で、町内が明るく、助け合い、支え合いに微力ながら力になればと思っています。

新潟市住みよい 郷土推進協議会 環境美化活動 功労者部門受賞

新中浜町内会 中野 茂夫

西内野小「子どもの体験型安全教室」実施

指導補助者（五十嵐中島自治会） 丸山 武男

2014年6月30日、西内野小学校の1年生を対象として、体験型安全教室が開催されました。その際、ボランティアとしてお手伝いをしたので、そのときの様子を紹介します。

安全教室はクラス単位で行い、都合4回実施しました。子どもたちは指導者の紙芝居を見たあと、全員が参加して体験学習を行いました。①「自分のふうせん」（適切な対人距離を確保）、②「防犯ブザー」（防犯ブザーの活用）、③「声のブザー」（大声で助けを呼ぶ）、④「ノーランドセル」（ランドセルを投げ捨て身軽になって、子ども110番の家等に逃げ込む）の4つのアイテムを学びました。最後に、「知らない人について行かない」、「一人にならない」などの注意があり、子どもたちは元気に「はい」と手を挙げていました。

子どもたちはみんな興味深そうに体験学習に取り組んでいました。終了後の子どもたちの笑顔が体験学習の成果を物語っていたと思います。何事も体験学習をすることは非常に大切です。大切な自分の命を守るために、ぜひ多くの子もたちに4つのアイテムを身につけて欲しいと思います。



指導補助者（内野平和台自治会） 土田 国夫

1 はじめに

豊かな安全な世の中のように見えても、大切に育てた子どもを単純な理由で連れ去るという事件が潜んでおり、子どもたちを安心して育てられる社会にはほど遠く、解決したと安堵している、またどこかで起こりうるという模倣性のある犯罪であります。

公園、空き地などから子どもの姿や声がなくなつて久しく、子どもたちを自由に遊ばせたくともできなくなっている証かもしれません。

2 現状

事件があるたびに子どもたちには、防犯ブザーの携行、子ども110番の家、集団登下校、ボランティアによる見守り、知らない人にはついて行かない等の防犯指導が段階的に徹底されてきてはいますが、この度1年生の児童を対象に、危険と対峙した時の体験型対処法の指導補助者として参加しました。

3 体験で学んだこと

訓練は知らない人から声を掛けられたときの相手との間合いをふうせんに置き換え、適度な距離の取り方、防犯ブザーの吹鳴、声を出して助けを求める、ランドセルを捨て走って子ども110番の家などに駆け込むなど体で覚えるもので、最初とまどつていた子どもたちも時間が経つにつれ、鬼ごっこ気分になりラックスして学んでいました。

4 今後の課題

知らない人にはついて行かないことは知識としてありますが、いざという時にどうしていいかわからない子どもたちも、今回の訓練で百聞は一見にしかずのごとく体で覚えることができ、一段とたくましさを感じたとともに、今後も登下校だけでなく家庭に帰った時を想定した訓練の必要性も感じられました。

活動報告

・夜間防犯パトロール（防災・防犯部）

9月3日（水）から、11月2日（日）までの9週間、週2回（水曜・日曜）午後7時30分から午後9時まで、延べ42名でパトロールを実施し、地域住民の安心、安全に寄与しました。

特に犯罪等に結びつく出会いはありませんでした。ただ、西内野小学校、新潟西高等学校附近に防犯灯が少ないことから、西内野中学校区青少年育成協議会や内野・西内野防犯組合などと協議し、市へ設置要望を行っていきたくと思っております。

・西内野地区自主防災訓練（防災・防犯部）

西内野地区の恒例事業の一環として自主防災訓練を11月3日（月・祝）の午前9時から各自治・町内会会長、消防団西方面隊内野分団、西区役所職員等の協力により無事終了することが出来ました。

この訓練は、西内野地区の住民各人が防災意識の普及と高揚並びに防災資材・機材の知識及び取扱いの習得等を目的に実施いたしました。

今年、天候に恵まれず雨天となり体育館での訓練となりましたが、「新潟市ジュニアレスキュー隊育成講習会」を受講した内野中学生、また新潟大学の留学生の参加もあり総員約300人に参加していただき初期の目的を全う出来たと感謝申し上げます。

・高齢者（独居）日帰り旅行（福祉部）

10月22日（水）4回目となる今回は28名の皆さんが参加し、ゆうばえ看護師の井口真紀さんから、介護に関する話を聞き、田ノ浦温泉の湯に身をほぐし楽しい話し合いのひとときを過ごしました。

あの人

「防災士」の認定を受けて



上原団地自治会 藤田 金五

西内野コミ協より「防災士」を取得する旨、推薦を受けました。十一月初旬の二日間、新潟市本庁舎で市内八区から各自治会の推薦者七三名で「防災士養成講座」を受講し、合格出来ました。講義は NPO 法人「日本防災士機構」が市の依頼を受け実施しました。各講師より過去の災害事例に於ける避難勧告・指示の伝達方法、避難所での避難生活者支援等切実なる問題を痛感致しました。「防災士」は何をするのか？疑心暗鬼でしたが、受講しその使命を理解出来ました。その基本理念は自助（自分の命は自分で守る）、共助（地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ）、協働（住民、自治体、防災機関等に協力し活動する）と謳われています。「災害は忘れた頃にやってくる」という諺がありますが、昨今は忘れないうちに全国で自然災害が続発しています。今後は地域防災力アップに水平展開してまいります。

海拔表示板を設置しました。

防災防犯部

12月10日、西内野地区の公園、電柱、個人宅塀など計39箇所、海拔表示板を設置しました。

この海拔表示板は、居住地域の海拔を日頃から意識して、地域の防災力の強化を目的にしたものです。

なお海拔表示板は、それぞれの看板設置付近の地盤の標高を表しています。



五十嵐中島公園に設置した海拔表示板

西内野の子どもたち

第45回ジュニア美術展覧会

特賞を受賞



西内野小5年 原田 龍信

自分の絵が特賞をとれると思わなかった。すごくうれしかった。

また賞をとれるように自分らしい絵を描きます。



「ロックと人 VS ヘビとの戦い」

西内野旧所めぐり 老人憩いの家

「五十嵐中島荘」

お年寄りのコミュニケーションの場「老人憩いの家五十嵐中島荘」をご存じでしょうか。

昭和61年3月29日に完成しました。所在地は、五十嵐中島3-22-1 平和台第七団地自治会館の隣りです。建物の延べ床面積は、165平方メートル（50坪）で大広間、浴室、台所などの間取りになっています。

囲碁、将棋、他にもマイクやスピーカーの設備があり、楽しくカラオケや踊りの稽古も出来ます。また午前10時から入浴もでき、1日平均15人の方々が湯を楽しんでおります。

憩いの家の利用方法は60歳以上で、健康保険証、自動車運転免許証など、住所、氏名、年齢が分かるものを持参し、「五十嵐中島荘」へお越しください。

【利用 時 間】 月曜日、祝日、を除く毎日 午前9時～午後4時30分

【定期利用券】 1ヶ月 5,000円 6ヶ月 3,000円 1年 5,000円

【定期券以外の利用】 1回 100円

【25年度年間利用者】 4,272人でした。

電話（261）1551

どうぞ、お気軽にご利用下さい。

青木 文男 記

編集後記

海拔表示板が設置された。発生してほしくないが大洪水、津波災害時に役立つことと思う。ところで、災害に強い町とは？確かにハード面は大切であるが、それとともに、個人の備え、ご近所とのつながり、そして自治会の防災力を高めることが肝心である。2014年11月22日に発生した長野県北部地震は良い教訓となる。

(K・H)

